

<p>クラス：</p>	<p style="text-align: center;">聴く・話すための発音 Pronunciation for Listening and Speaking - よりスムーズなコミュニケーションのために - EPrM-30</p>
<p>曜日：</p>	<p>Wednesday</p>
<p>時間</p>	<p>10:00-11:50</p>
<p>レベル：</p>	<p>中級</p>
<p>講師：</p>	<p>Ms.大石美幸</p>
<p>目的：</p>	<p>英語が聞き取れない、話せない理由の一つは、「英語の音体系」、簡単にいうと、「英語の音の特徴と仕組み」を知らないことにあると思います。「日本語の音体系」で英語を聴いたり、話そうとしても限界があり、この違いに気づき乗り越えることで、発音のみならず、聞き取り力もアップすると考えます。</p> <p>本講座は「発音のための発音」を超え、よりスムーズなコミュニケーションを目指して、「英語の音の特徴と仕組み」を、四つの視点、a) 個々の音、b) 単語ストレス、c) 文ストレス、d) イントネーションから学んでいきます。</p> <p>これらの様々な側面から「英語の音」を学ぶことで、より「英語らしい音、リズム、メロディー」を身につけることを目的とします。「自分で英語らしい音を発する」ようになると、自信もつき、また聞き取り力も上がり、結果コミュニケーションがより円滑になります。大切なことは、「ネイティブスピーカーのように発音すること」ではなく、「一回で通じる相互意思疎通」と、それによって生まれる「自信」です。</p>
<p>授業内容：</p>	<p>下記四部構成テキストに沿い、英語の音の仕組みを学び、発音練習します。</p> <p>a) 英語は日本語と違い、音と綴りが一致しません。まずそのことを理解したうえで、全母音、全子音の各音を学び、身につけます。</p> <p>b) 音節 (syllables)、強母音と弱母音の概念を理解し、個々の音が単語になったときどう変化するかを学び、身につけます。</p> <p>c) 個々の音がフレーズやセンテンスになったときどう変化するかを学び、文の区切り方とつなげ方、メリハリのきいた英語らしい強弱のリズム、品詞による強弱音分別の仕組みを学びます。</p> <p>d) 会話に現れる英語らしい様々な抑揚 (intonation) を学び、微妙なニュアンスや気持ちを理解し、目的に合った表現ができるよう目指します。</p> <p>単調になりがちな発音練習ではなく、実際の会話に登場する語彙・表現もたっぷり含みます。クラス内、自習時共に教科書付随のCDを使用します。発音学習には欠かせない「発音記号」も同時に学んでいきます。</p>
<p>教材：</p>	<p>English Pronunciation in Use, Elementary ; Cambridge University Press ('Elementary' とありますが、中級の内容です。)</p> <p>今学期は、上記 a) から「母音」(Units 1-10) と、b) 音節と強弱母音、ワード・ストレス (Units 28-32) を中心に学びます (秋学期が当講座のスタート学期です)。</p>